

## ドイツ語 (初級 B) 第 28 回 es の用法: 仮主語と仮目的語、序数

範囲: 教科書第 17 課 (S. 67-69)

### 《今回の基本例文》

99. Er wartet darauf, endlich befördert zu werden. (CD87-2)

彼は、やがて昇進させてもらえるのを待っている。

[es の用法 (仮目的語 es)、zu 不定詞を受ける前置詞と人称代名詞の融合形、zu 不定詞 (受動不定詞)]

100. Wann ist dein Vater geboren?

– Er ist am neunzehnten Juni neunzehnhundertsiebenundachtzig geboren. (CD88-3)

君のお父さんはいつお生まれですか? – 父は 1987 年 6 月 19 日に生まれました。

[序数、西暦年、月日、(状態受動)]

## I es の用法: 仮主語、仮目的語

A. es の用法 (2): 後続の語句を先取りする es (S. 64)

### ■ 仮主語、仮目的語としての es

名詞節や zu 不定詞が長大な場合: es で先取りする

→ 名詞節や zu 不定詞 (= 本来の主語、目的語) は文末

◇ es の特殊な用法には、教科書第 14 課 B で学んだもののほか、後続の語句を先取りする**仮主語**や**仮目的語**としての用法も存在する。

\* すでに何度か登場し、解説した。(⇒教科書 S. 35, S. 65)

### 1 名詞・代名詞を先取りする es

◇ 名詞節の副文や zu 不定詞ではなく、一般の名詞や代名詞を先取りする用法。いずれも熟語的表現になる。あくまでも本来の主語は es ではなく後続の名詞や代名詞なので、そちらが 1 格となることに注意。

• Es passiert ... : 「...が起こる」

Es passierte heute Morgen ein schwerer Unfall.

今朝、重大事故が起きた。

\* 本来の主語は ein schwerer Unfall。よって、4 格 (einen schweren Unfall) などではなく 1 格になっている。

• Es ist ... : 「...がある」

Es war niemand zu Haus.

家には誰もいなかった。

= Es gab niemanden zu Haus.

\* 本来の主語は niemand。es gibt 構文では「ある」ものが 4 格で示されるのと比較せよ。

◇ 文学的文章などで書き出しを示したりする場合にも、こうした **es** が文頭に置かれることがある。

**Es** saßen viele Leute im Zug.

列車には大勢の人が座っていた。

\* 本来の主語は *viele Leute*。よって、動詞が複数 3 人称に対応する *saßen* になっている (*saß* ではなく)。

## 2 副文を先取りして

◇ **名詞節**の副文 (**dass 節**、**ob 節**、**間接疑問文**など) は、仮主語や仮目的語の **es** で先取りすることができる。その場合、本来の主語や目的語である名詞節の副文は、コンマで挟んで文末に配置する。

\* もちろん、英語の *it* にも存在する用法。

**Es** freut mich, dass du kommst.

君が来てくれてうれしい。(= 君が来ることが、私を喜ばせる。)

\* **es** は仮主語で、本来の主語は **dass 節** = *dass du kommst*。詳しい解説は授業第 13 回配付資料 S. 3 へ。

Mir ist **es** ganz egal, was sie über mich denkt.

彼女が私のことをどう思おうと、私はまったく構わない (= 私にとってまったくどうでもよい)。

\* **es** は仮主語で、本来の主語は間接疑問文 = *was sie über mich denkt*。(⇒教科書 S. 35)

\*\* **über** は「～について」の意味の前置詞。(⇒授業第 8 回配付資料 S. 3)

## 3 zu 不定詞句を先取りして

◇ **zu 不定詞**も名詞扱いであるため、仮主語や仮目的語の **es** で先取りすることができる。やはり、本来の主語や目的語である **zu 不定詞**は、コンマで挟んで文末に配置する。

**Es** freut mich, Sie kennenzulernen.

あなたと知り合いになれてうれしい。(= あなたと知り合いになることが、私を喜ばせる。)

\* **es** は仮主語で、本来の主語は **zu 不定詞** = *Sie kennenzulernen*。分離動詞の **zu 不定詞**に注意。(⇒教科書 S. 65)

Ich habe [**es**] wieder einmal vergessen, ihm das Geld zurückzugeben.

私はまたしても彼にお金を返すのを忘れた。

\* **es** は仮目的語で、本来の目的語は **zu 不定詞** = *ihm das Geld zurückzugeben*。引き続き分離動詞の **zu 不定詞**に注意。

\*\* この **es** はなくても文が成立するが、ある方が好まれる。

◇ **zu 不定詞**が前置詞を含む熟語の目的語となる場合、**zu 不定詞**の前にはその**前置詞と人称代名詞の融合形** (**da[r]**+前置詞) が置かれる。要するに、前置詞と仮目的語の **es** が融合形になる。

\* 教科書 S. 65 および授業第 27 回配付資料 S. 4 でも解説してある。

Ich bitte Sie **darum**, möglichst pünktlich zu sein.

← Ich bitte Sie ~~um~~ **es** → **darum**, möglichst pünktlich zu sein.

できるだけ時間を守ってくださるよう、お願いいたします。

\* **darum** (⇒教科書 S. 27) を分解すると **um es**、この **es** は仮目的語で、本来の目的語は *möglichst pünktlich zu sein*。

\*\* 使用されている熟語は *jn. um etw. bitten* (〈4 格〉に 〈4 格〉を頼む)。(⇒教科書 S. 24)

**練習問題の補足**

**Übung 1** (S. 67)

1. an *et*<sup>4</sup>. denken で「〈4 格〉のことを考える」。 (⇒教科書 S. 28)
2. auf *et*<sup>4</sup>. warten で「〈4 格〉を待つ」。 (⇒教科書 S. 24)
3. mit *et*<sup>3</sup>. rechnen で「〈3 格〉を計算に入れる」。

**練習 1**

() 内の指示に従い、以下の日本語の意味になるようにドイツ語作文をせよ。[] 内に語彙が与えられている場合は、それを用いること (各語彙は適切なかたちに変化させなければならない場合もある)。

1. この川で泳ぐのは危険である。(仮主語 *es* を用いないで)

[*gefährlich adj.* 危険だ *in diesem Fluss* この川で *schwimmen vi.* 泳ぐ]

2. この川で泳ぐのは危険である。(仮主語 *es* を用いて)

3. 美術館のなかでの写真撮影は禁止されている。(仮主語 *es* を用いないで)

[*Museum n.* 美術館 *fotografieren vi.* 写真を撮る *verboten adj.* 禁止された]

4. 美術館のなかでの写真撮影は禁止されている。(仮主語 *es* を用いて)

5. 彼は明日、はやく起きるつもりである。(仮目的語 *es* を用いないで)

[*früh adv.* 早く *aufstehen vi.* 起きる 〈4 格〉を計画している *vt. vorhaben*]

6. 彼は明日、はやく起きるつもりである。(仮目的語 *es* を用いて)

7. 彼女はラテン語を学びはじめる。

[*Lateinisch n.* ラテン語 *mit et*<sup>3</sup>. *anfangen* 〈3 格〉をはじめる]

8. 彼はドイツ語を学ぶのを諦めねばならなかった。

[*auf et*<sup>4</sup>. *verzichten* 〈4 格〉を諦める]

9. 君と映画に行く時間はない。

[*Zeit f.* 時間 *ins Kino gehen* 映画に行く]

10. 私はベルリンに事務所を開く計画を持っていた。(現在完了で)

[*Büro n.* 事務所 *aufmachen vt.* 〈4 格〉を開く 計画 *m. Plan*]

11. 私は自動車を買うためにお金を貯めている。

[*Auto n.* 自動車 *Geld sparen* お金を貯める]

12. 私の同僚は、日本文化についての講演を行うためにベルリンに行った。(現在完了で)

[*Kollege m.* 同僚 *japanische Kultur* 日本文化 *einen Vortrag halten* 講演を行う]

## II 数詞 (序数)

### ■ 序数

序数 = 基数 + t (19.まで)  
基数 + st (20.から)  
例外: **erst** (1.), **dritt** (3.), **acht** (8.)

- ◇ 序数は「～番目の」を表す数詞で、英語の *first, second, third...* に相当する。
- ◇ 算用数字で記述する場合、「1.」や「12.」のようにピリオドをつける (国際共通)。
- ◇ 付加語として用いられるので、付加語的用法の形容詞と同じ変化をする。

#### 《形容詞の復習》

用法: a) 付加語、d) 名詞化 (格変化あり)

b) 副詞、c) 述語 (格変化なし)

格変化: 無冠詞 → 強変化

定冠詞 (型) つき → 弱変化

不定冠詞 (型) つき → 混合変化

\* 強変化/弱変化/混合変化の表は教科書 S. 39-40 を、それらの覚え方は授業第 17 回配付資料 S. 3-4 を参照のこと。

- ◇ 建物の「階」は、日本語や英語における 1 階を Erdgeschoss (*n.* 地階) と呼び、日本語や英語における 2 階以降を  $n-1$  の序数を用いて表す。「階」は Stock (*m.*) か Etage (*f.*)。

\* Etage はフランス語からの外来語で、フランス語式発音になる。

Ich wohne im 5. (fünften) Stock.

= Ich wohne in der 5. (fünften) Etage.

私は 6 階に住んでいる。

- ◇ 高校以前の「学年 (Klasse *f.*)」は、最初の小学校入学からの通算年数を序数で表す。大学以降は、あまり学年という考え方をせず、在籍した学期 (Semester *n.*) 数を言うことが多い。

\* 地域によって異なるが、一般的には小学校 (Grundschule *f.*) が 4 年制、ギムナジウム (Gymnasium *n.*) が 9 年制。大学非進学予定者は小卒後に基幹学校 (Hauptschule *f.*) や実科学校 (Realschule *f.*) に行く。

Ich gehe in die elfte Klasse des Gymnasiums.

私はギムナジウム 11 年生です。

\* 小学校入学から数えて 11 年目という意味。小学校を 4 年生とすると、ギムナジウム自体には 7 年目になる。日本での高校 2 年生に相当する。

\*\* 「11 年目のクラス」が gehen の目的地に相当するため、in+4 格が使われている。

Ich bin im zweiten Semester.

私は (大学の) 2 学期目に在学中です。

\* 日本での大学 1 年生後期に相当する。

1 月日・西暦年数 (S. 68)

日一月一年の順

日: 序数 (男性)、前置詞は **am**

月: 固有名、前置詞は **im**

年: 基数 (1 年~1099 年、2000 年以降)

上 2 桁+hundert+下 2 桁 (1100 年~1999 年)、前置詞はなし

◇ ドイツ語の西暦年月日は、日一月一年の順。「日」を算用数字で書いた場合、句点を打つ。

\* 日本語 (年-月-日) と米式英語 (月-日-年) と異なり、英式英語と同じ。

17. Dezember 2024 = der siebzehnte Dezember zweitausenddreißig (ドイツ語)

December 17, 2024 = December [the] seventeenth, two thousand twenty-three (米式英語)

2024 年 12 月 17 日 (日本語)

◇ 「日」は、

・ **男性定冠詞**つき序数で表す。「~番目の日 (Tag *m.*)」であるため。

Der Wievielte ist heute? / Den Wievielten haben wir heute?

今日は何日ですか。

- Heute ist der 3. (dritte) Juli. / Heute haben wir den 3. (dritten) Juli.

今日は7月3日です。

・「~日に」と言うとき、前置詞 **an** を用いる。ただし、前述のように「日」は男性定冠詞つき序数で表すので、実質的には **an+dem** の融合形の **am** が現れる。

Wir haben **am** 5. (fünften) April geheiratet.

私たちは4月5日に結婚しました。

・ **曜日**は以下の通り。「何曜日に」は、やはり **am** を用いる。

日本語	ドイツ語	(英語)
日曜日	<b>Sonntag</b>	Sunday
月曜日	<b>Montag</b>	Monday
火曜日	<b>Dienstag</b>	Tuesday
水曜日	<b>Mittwoch</b>	Wednesday
木曜日	<b>Donnerstag</b>	Thursday
金曜日	<b>Freitag</b>	Friday
土曜日	<b>Samstag / Sonnabend</b>	Saturday

\* 基本的には英語と似ており、同じくゲルマン神話の神々に由来している。ただし、水曜日の Mittwoch 「週 (Woche) のまんなか」に注意。もともとは英語 (Wednesday) と同じ「ヴォータン (=北欧神話のオーディン) の日」 Wotanstag だったらしい。

Die Sitzung findet am Freitag, dem 15. (fünfzehnten) Januar in der «Kleinen Halle» statt.

会議は1月15日金曜日に「小ホール」で開催されます。

\* Freitag と同格であるため、「1月15日」は dem 以下の3格で記載されている。

◇ 「月」は、

- ・月名には英語同様に固有名があるので、まずそれを覚える。

日本語	ドイツ語	(英語)	日本語	ドイツ語	(英語)
1 月	Januar	January	7 月	Juli	July
2 月	Februar	February	8 月	August	August
3 月	März	March	9 月	September	September
4 月	April	April	10 月	Oktober	October
5 月	Mai	May	11 月	November	November
6 月	Juni	June	12 月	Dezember	December

\* やはり英語に似ており、いずれもラテン語起源である。ただし、発音はドイツ語式であり、綴りも微妙に異なるもの (Oktober, Dezember など) があるため、そこには注意。

\*\* 正式名称の代わりに数字 (日本語の n 月と同じ) で表すことがあり、その場合は「日」同様に序数を用いる。

- ・「～月に」と言うとき、前置詞 **in** を用いる。ただし、月名はすべて男性で定冠詞をつけるので、実質的には in+dem の融合形の im が現れる。

◇ 「西暦年」は、

- ・1 年から 1099 年まで、および 2000 年以降：単なる基数でよい。
- ・1100 年から 1999 年まで：上 2 桁+hundert+下 2 桁 (〇〇×100+△△という考え方)。
  - \* 上 2 桁と下 2 桁を分けて考えるのは英語と同じだが、ドイツ語では **hundert** が必要。
  - \*\* また、英語と異なって分ち書きもしない。「1999 年」は英語では *nineteen ninety-nine*、ドイツ語では *neunzehnhundertneunundneunzig*。
- ・「～年に」と言うとき、通常は前置詞を用いず、副詞的 4 格とする。
- ・年月日をすべて言うときは、前置詞は **am** だけでよい。

Ich bin **am** 16. (*sechzehnten*) Mai 1991 (*neunzehnhunderteinundneunzig*) in Heidelberg geboren.  
 私は 1991 年 5 月 16 日にハイデルベルクで生まれました。

\* 「生まれた」と言う場合、gebären (-gebar -geboren, vt. 〈4 格〉を生む) の状態受動の現在を用いる。

◇ 書類や手紙に日付を書く場合は、副詞的 4 格を用いるか、単に 1 格とする。

Tokyo, **den** 17. (*siebzehnten*) Dezember 2024 (*zweitausenddreißig*)

Tokyo, 17. (*siebzehnter*) 12. (*zwölfter*) 24 (*zweitausenddreißig*)

\* 下は略式の書き方。月名ではなく数字を用いており、無冠詞のためいずれも強変化 1 格をしている。

**練習 2**  
 次の西暦年をドイツ語で言え。  
 1. 794   2. 1192   3. 1333   4. 1492   5. 1600   6. 1789   7. 1815   8. 1848   9. 1968   10. 2001

**連絡先など**

教員のメールアドレス: tokan@nifty.com 授業のウェブサイト (進捗表示、配付資料あり): <http://hasegawa.la.coocan.jp/lecture/>